

算数 1		東京書籍株式会社（2東書）
特に優れている点	1 大阪市 施策	○【言語・思考】思考力・判断力・表現力を伸ばすために、「考えよう伝えよう」「算数マイノートをつくろう」では式や図などの数学的な表現を使った発表場面、ノートの書き方といった言語活動例が示されており、言語力の育成に配慮されている。（4年下P22, P23） ○【習熟】巻末「ほじゅうのもんだい」で、基礎・基本レベルと適度な負荷のあるレベルの問題が用意され、基礎的・基本的な事項が確実に習得できるように配慮されている。児童の理解や学習の程度に応じて学力を伸ばすことができるよう工夫もされており、学習状況に応じたきめ細かな指導や内容が充実している。（3年上P118～P127） ○【自主学习】家庭学習への配慮として「ふりかえりコーナー」では児童の理解状況に応じて既習事項を確かめ、学び直しができるように工夫されている。（4年下P134）
	2 その他	○問題、課題、まとめの表記が全学年で統一されて示されており、児童にとって一目でわかるように工夫されている。（4年上P122） ○いろいろな解決方法がある問題場面が豊富に取り入れられ、様々な解決方法から、学ぶことの楽しさや成就感を味わえるように工夫されている。（2年下P43～P45） ○単元導入では、身近な素材を用いた様々な算数的活動が取り入れられており、児童が楽しく主体的に学習できる工夫がなされている。（2年上P48）また、他教科との関連も意識されており、児童の生活に合わせた配慮がみられる。（5年下P54, 4年下P100理科との関連）
	3 全国 調査	○5・6年の「算数の目で見てみよう」では、全国学力・学習状況調査の問題を意識した、全国学力・学習状況調査の問題を取り上げ、知識や技能を活用する力などの学力の向上を図ることができる。説明を求める問題もあり、必要な事柄を過不足なく記述する力を育成するように配慮されている。（5年上P118） ○場面と図を関連付けて考えられるように、数直線やテープ図が繰り返し提示されている。また、数直線の意味や書き方もわかりやすく示されている。（5年上P140） ○5年「単位量あたりの大きさ」では、配当時間13時間と比較的多く、充実した印象である。また、低学年から「倍」や「比例」の学習が導入され、”1ばいは1つ分”といった説明があるなど、数量の関係の素地づくりに工夫がされている。（2年下P10）
	4 外的 要素	○ユニバーサルデザインの書体が使われており、読みやすく見やすい。また、色だけでなく形でも判別できるような工夫がなされている。（6年P188） ○製本が丈夫で、文字が鮮明であり、大きさやフォント、行間等読みやすい印象である。さし絵や写真等の色づかい、配置も適切である。表紙のイラストは親しみやすい中にも、算数的な要素が含まれており、背景の色は白で統一され、清潔感がある。 ○他社と比べ、唯一1年生が上下に分かれ軽量化され、身体的負担への配慮がみられる。6年生は合冊になっており、中学校進学を見通した配慮もされている。
	5 構成 配列	○巻末の「おもしろ問題にチャレンジ！」などのオプション教材も豊富に紹介され、単元一つひとつの時数も比較的多く配当されているため充実している。 ○各学年において、領域がバランスよく配列されており、学期制度や評価に対する配慮がみられる。他教科と関連する内容のものは、時期が考慮されており、教科間の連携が図れるように工夫されている。（4年P6） ○「おぼえているかな？」では学習の継続性、内容の系統性が意識され、既習事項を振り返りながら学習を進められるような構成になっている。（5年上P13）
	6 資料	○2年生以上の「算数マイノートをつくろう」ではノートの書き方の見本が掲載されており、参考にしやすい。（3年上P16, P17） ○資料は正確で、出典が明記され、図表・さし絵・写真・図形・統計などの資料はどれも新しく、適切に用意されている。 ○もくじや「算数自習コーナー」のはじめには、保護者へのメッセージコーナーを設け、教科書の編集上の趣旨や構成上の特色を解説している。
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市 施策	○【言語・思考】数学的な考え方などをキャラクターが示す際は、次ページに記載するなどの配慮がみられるが、提示されてしまっているものもある。考えなくても教科書を開けると答えがわかることとなる。思考力の育成の妨げになってしまう場面もある。（3年上P72） ○【習熟】発展的な問題の扱いが3年以上であり、1年、2年では扱っていない。
	2 その他	○学習課題が明記されている時間とそうでない時間とが混在するため、児童が混乱する。また、数学的用語・記号の記載時に背景色がある場合とない場合があり、統一感ない（3年上P87, P88） ○学習素材として、「いんさつ室」は児童にとってイメージしにくい。（3年上P81）「ふがし」は、大阪では一般的になじみのない呼称である。（2年上P8）
	3 全国 調査	○立体図形では、直方体と立方体の見取図や展開図をかく機会がそれぞれ1時間だけと少ない。（4年下P94）また、角柱と円柱の配当時間も少なく、技能面のみの展開となっている。 ○計算などの根拠となる性質やその意味を理解できるように丁寧な説明がされていて、わかりやすい（1年下P4）ものがほとんどであるが、考え方の例示により、かえって複雑になっている。（5年上P50）
	4 外的 要素	○4年のページ構成は、文字が小さく、多めで、紙面が詰まってみえる。 ○巻末の「ふりかえりコーナー」はヒントカードとしての活用を意識しているためか、内容は充実しているが紙面に対して分量が多くなっている。（3年上P131）
	5 構成 配列	○2年「時こくと時間」の単元が上巻の7番目の単元扱いで遅い。他社では1番目の扱いになっている。生活科の「町たんけん」（6～7月頃）に時刻を判断して行動させるので、他教科との関連への配慮が必要である。 ○6年「円の面積」が他社と比べると第2単元と早く、苦手な児童には困難な配列である。
	6 資料	○ノートの書き方の見本に課題の記述がない。また、練習問題もなく、一時間の内容としては不十分である。 ○登場するキャラクターが多く、児童の混乱も予想される。また、問題提示の際に登場する先生は、女性の割合が非常に多く、性別のバランスをとる必要がある。

算数 2		大日本図書株式会社（4大日本）
特に優れている点	1 大阪市 施策	○【言語・思考】数学的な思考力・判断力・表現力を身につけるため、「算数の学び方」を各巻頭に設けて、算数科の学習の流れとノートの手書き方を示して、課題解決型の展開を学べるように配慮されている。 ○【活用】随所に「算数たまたげ」があり、主体的に学習に取り組めるよう工夫されており、知識や技能を活用する力の育成に配慮されている。 ○【自主学习】2年巻末に乗法九九の表が綴じられており、自分で学習する際の参考になるよう工夫されており、家庭学習でも使えるよう配慮されている。
	2 その他	○他教科や学校生活、日常生活と関連した教材を取り上げるように配慮されている。（2年P91, 3年P43など） ○単元導入時に、「アプローチページ」が設けられ、児童の生活経験に即した場面が取り上げられている。（4年P54, 6年P70など） ○「ふり返ろう」で、数学的な考え方や学習内容を確認することができるよう配慮されている。（3年P41など）
	3 全国 調査	○全国調査をふまえた学習課題を設定しており、知識や技能を活用する力などの学力の向上を図ることができる。（3年P144など） ○テープ図を使って2つの数量の関係が丁寧に記述されており、場面と対応させて数量の関係をとらえやすい。（2年P152～） ○4年「数直線図のかき方」では、数直線図のかき方を丁寧に引き上げ、数量の関係を理解しやすいように工夫されている。（4年P224～P225）
	4 外的 要素	○全学年とも1冊にまとめられており、学年を通して1年間の学習を見通しやすくなっている。 ○表紙は年間使用に耐えうるよう丈夫で汚れにくいように工夫されている。 ○製本は見やすくて開きやすい製本形式を採用している。
	5 構成 配列	○5・6年には前学年までの復習問題「チェックアンドトライ」が設けられ、学年の始めに児童の理解度が確認できるようになっている。（5年P220～P221） ○巻末に、学習進捗の実態に応じて適宜使用できる補充問題がある。 ○目次に関連する既習の単元名や内容が示され、単元が系統的に配列されている。（2年～6年）
	6 資料	○用語や重要事項などを児童自らが振り返ることができるよう、巻末に索引がある。
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市 施策	○【基礎】それぞれの学年で、図等の不足や見通しの記述がないところがあり、児童が理解しづらい。（4年P111, 5年P28～P29など） ○【言語・思考】本文中に話し合い活動の例がほとんど見られない。（4年P113など）
	2 その他	○他社に比べると写真やイラストが少なく、児童の興味・関心を引き出す工夫がなされていない。 ○ものさしを使った長さのはかり方の記述がなく、子どもたちが理解しづらい。（2年P44）
	3 全国 調査	○「単位量あたりの大きさ」の混み具合の問題では、空白が6行とっており、考えを書かせようとしているが何を書いているのかわからない。また、さし絵がなかったり、公園や量の上の絵が不自然だったり、問題設定に無理がある場面がある。（5年P116～P117） ○2年「分数」では、「もとの大きさ」が強調されていないので、児童の理解に困難な面がある。（2年P188など, 3年「分数」も同様）
	4 外的 要素	○特に大事にしたい事柄と問題などの区別が付きにくく、ただではその時間のポイントとなる場所がわかりづらい。（6年P147, 4年P70など） ○ページ数が少なく、練習問題も少ない。 ○さし絵の色づかいが少なく、学習のめあてやまとめが視覚的に分かりにくい。
	5 構成 配列	○1年から6年が合冊であり、ページ数、学習内容、問題数が少ないので、基礎・基本の定着が望めない。 ○次単元の準備の問題が復習の中に埋もれていてわかりづらい。（3年P112, 4年P37など）
	6 資料	○さし絵が問題と対応していない場面がみられる。（3年P65など） ○全体的に子どもの吹き出しが少なく、言語活動が充実していない。 ○2年P52, P53の場面では、あらかじめ100のまとまりを意識するような絵ではなく、自由に囲むようになっているのに、10ずつまとめて数えるときに囲みづらくなっている。

算数 3		学校図書株式会社（11学図）
特に優れている点	1 大阪市 施策	○【言語・思考】2年以上の冒頭に、「算数でよく使う考え方」として、具体例を挙げながら分かりやすく解説し、論理的思考力の育成に配慮されている。 ○【基礎】2年長さの和の計算で、単位ごとの筆算の仕方が例示されており、計算方法が捉えやすく、基礎的・基本的な事項が理解しやすい。（2年下P67） ○【活用】単元導入前に「学びの準備」のページを設け、生活経験や既習事項を振り返る場としており、知識や技能を活用する力の育成が図られている。 ○【活用】1年では、「おかしを百円玉1枚でお釣りが出ないように買う」という問題場面を設定し、生活に即した考える力の育成を図っており、知識や技能を活用する力の育成が図られている。（1年P146）
	2 その他	○最後のページに「この本で出てきた言葉と記号」として、教科書に載っている数学的用語・記号をまとめ、掲載ページも記している。 ○単元末の「力だめし」で学んだことを定着させる問題が設定されており、「チェック欄」を活用した自主学習の工夫も見られる。 ○たし算の仕方を、おはじき、ドット図、ブロックと方法を変え、それぞれで10を単位にした考え方を示している。（2年上P15） ○3年そろばんの学習では、子どもとおじいさんの会話のように展開していく工夫がなされている。（3年下P105～）
	3 全国 調査	○場合に基づいて数を整理したり、式に表したりする等の問題を取り上げ、知識や技能を活用する力を向上させるように配慮されている。（5年P271～P273） ○見取り図を途中まで示しておいて続きを子どもにかかせるという丁寧な配慮がなされており、立体図形の見取り図や展開図から、問題解決に必要な情報を読み取る力を育成するように工夫されている。（5年P249）
	4 外的 要素	○単元扉を設け、大判のイラストや写真を示して課題提示し、子どもが興味関心をもって学習に取り組めるような工夫がなされている。（3年下P17, 4年下P5など） ○製本が丈夫で、表紙が白を基調にシンプルにまとめられており、動きのあるイラストが用いられている。
	5 構成 配列	○6年生別冊に「中学校へのかけ橋」を設け、中学校に向けた学習に対する意欲を高められる。 ○4年「折れ線グラフ」では理科との、5年P254～P255「台所から考える」では環境教育との関連を意識した題材を取り上げている。
	6 資料	○表紙裏の「算数探検隊」では、生活や社会の中の算数を写真で紹介しており、興味・関心を高められるようになっている。 ○連続写真を使い丁寧に、直線の引き方、コンパスを使った円のかき方を説明している。（2年上P82～P83, 3年下P22～P23）
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市 施策	○【言語・思考】「ことば」という欄を設け、言葉の学習を取り入れているが、低学年のうちから取り組む方がよい内容がある。（5年P31, P171など） ○【基礎】1年生の学習内容が「10までのかず」「いくつといくつ」「なんばんめ」となっており、他の教科書と比べて順序数の学習が遅く、児童の理解が不十分になることが予測される。 ○【基礎】「ひろさくらべ」でボードの端が揃っていない。（1年P109） ○【言語・思考】3年「ノート名人になろう」は、言葉の表記が多く、分かりづらい。（3年下P26）
	2 その他	○「10までのかず」挿絵の動物に重なりが多く、数の認識がし難い。（1年P6） ○位取り表が簡略化されたものが続く。位取り表内は「一の位」「十の位」といった正しく表記したほうが良い。（1年P116） ○遠足の日記を数直線で表すが、最後だけかいてあり、続きをかき加えましようとするが、時間の流れに沿ってする方がよい。（2年上P124） ○3098000000000のかき方に違和感あり。（4年上P14）それ以外にも数を位ごとに離し過ぎている箇所がある。（4年P10～15）
	3 全国 調査	○「単位量あたりの大きさ」の式を考えるのに、テープ図と数直線、表と色々な考え方で求めようとしていることが返って児童に混乱を招くことになる。（5年P41） ○2年上「たし算・ひき算の筆算」の問題場面を、テープ図に繋げるようにと意識されているかと思うが、「筆算」自体が子どもたちにとって難しいのに、色々な要素を入れ込むと、とても難解になる。 ○比例で、2量の関係を説明する活動が不足している。（5年P202～）
	4 外的 要素	○数や文字が教科書体になっていないところが随所に見られる。（5年P86など） ○「三角形」の青と緑のストローが見分けづらい。（3年下P84）また、辺の長さに着目させたい内容に対し、2つの方法が例示されているが必要性がない。 ○5年生の教科書が重くて扱いにくい。 ○1年とじこみページが多すぎて見づらい。 ○挿絵の色に統一感がない。 ○キャラクターは粘土よりも絵の方が表情豊かで良い。
	5 構成 配列	○5年「単位量あたりの大きさ」が「小数のかけ算」より前に学習することになっている。 ○2年上の単元配列で「1000までの数」が「たし算・ひき算の筆算」より前にあり、1学期に「3桁のたし算・ひき算」を学習している。2桁のたし算・ひき算の筆算だけでも難しいので、難易度が高すぎる。
	6 資料	○長さの違いを求めるのに、ピンクのテープとブルーのテープに名称もナンバリングもなく、どちらがどれだけ長いかの答え方が難しい。（2年上P86, P87のれんしゅう4の②, 力だめし4の②）

算数 4		教育出版株式会社（17教出）
特に優れている点	1 大阪市 施策	○【自主学习】冊子巻末には「ステップアップ算数」や「学びの手引き」など習熟の程度に応じて活用できたり、家庭学習で使えるたりする内容が取り入れられている。（各学年下巻巻末） ○【言語・思考】2年以上の巻末の「算数を使って考えよう」で、理由を書かせたり説明させたりする問題が設定され、思考力・表現力を育てる工夫が見られる。 ○【基礎】問題→解決→発表→まとめ→たしかめ・練習があり1時間の学習で基礎的・基本的事項を習得できるようになっている。
	2 その他	○「はてな?」「なるほど」のふきだしを使って学習のねらいとまとめを明示することで課題がとらえやすく、こどもが目的意識を持って主体的に取り組める工夫がされている。（2年上P17,P18） ○文字や図だけでなく4コマで学習が振り返る場面もあり、子どもの興味を引き惹く工夫がされている。（3年下P42） ○割り算の意味理解を図るために、絵やドット、テープ図など多様な分け方を示すなどの配慮がなされている。（3年上P44～）
	3 全国 調査	○単位量当たりの大きさの導入では、エレベーターの混み具合という生活場面に即した問題が設定されており、単位量当たりの大きさを求める式の意味を理解しやすいように配慮されている。（5年P109） ○問題にあう写真を挿絵として取り入れることで場面と図を関連付けて2つの数量の関係を理解させる工夫がされている。（5年P112,P113） ○2年たし算とひき算の繰り上がりのひっ算の図でブロックを傾けて考えている図がある。児童の実態に合っていて工夫がされており、計算などの根拠となる性質やその意味を理解できるような工夫がされている。（2年上P22,P35）
	4 外的 要素	○単元末の「まとめ」を4コマ漫画で示すなど、親しみやすくなるよう工夫されている。（6年P14など） ○絵や写真が適切に使われている。
	5 構成 配列	○数計領域の単元がなるべく連続しないように配置されている。数計と数計の間に違う領域が配置されている。（4年など） ○配当時数は他の教科書と同じぐらいのページ数で特に偏りがない。 ○色づかいがカラーユニバーサルデザインの観点で配慮されている。
	6 資料	○「学びの手引き」（4年上P6）や「学びのマップ」（5年P264）などが資料として配置されている。 ○ノートの書き方の見本が掲載されていて、参考にしやすい。 ○6年円の面積を求める学習では、折り込みで半径10cmの円全体を実寸で提示し、算数的活動に配慮されている。（6年P77～P78）
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市 施策	○【基礎】2・3年の教科書にはひっ算で方眼が用いられているが、4年以上（割り算）では方眼が用いられず、わかりづらい。（5年P60～P63） ○【基礎】練習問題は計算問題の種類(内容)ごとに色分けしているが、問題の質の違いがわかりづらい。（3年上P2,P30,P31）
	2 その他	○2年上P52に直線の学習があるが、そこで必要な事柄がP127物差しの使い方と書かれており、学習時にページを行き来するため、無駄な動きが伴う。 ○99羽のヒヨコが見づらく、数えにくい。（2年上P65） ○折れ線グラフの完成図がすぐ横に記載されているので学習意欲の妨げになる。（6年P96,P97）
	3 全国 調査	○単位量当たりの大きさの導入でせっかく良い素材を使っているのにエレベーターの床のマス目が見づらく、分け方がわかりづらい。（5年P109） ○花壇の花がおおざっぱすぎて単位量あたりについて着目させるにあたり配慮に欠ける。（4年上P101）
	4 外的 要素	○「新しく考える問題」部分はフォントが大きく見やすいがそれ以外は文字のフォントが小さく見づらい。 ○ステップアップ算数の単元の文字背景、図形に青が多く、色が重なり見づらい。（5年P239） ○防災ずきんは一般的でない。（3年上P43）
	5 構成 配列	○4年の単元配列で8面積まで図形の学習がない。 ○3年で「分数」を「小数」より先に配列しているため、児童の理解に困難な面が見られる。
	6 資料	○見づらい絵がある。（6年P123の挿絵のレシピ,P154の4コマ目の男の子の指が4本に見える。など）

算数 5		株式会社 新興出版社啓林館（61啓林館）
特に優れている点	1 大阪市 施策	○【言語・思考】「学習の進め方」や「よみとる算数」などを設定し、主体的な学習を促し、読解力や言語活動の充実を大切にして問題に取り組むことができる。 ○【基礎】計算領域では数直線、線分図などの図が多様に用いられていたり、巻末に「もっと練習」が設定されていたりして、児童の理解に応じて活用できるよう工夫されており、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図るように配慮されている。 ○【言語・思考】「考えを広げよう深めよう」で、学習内容に関連した文章題が位置付けられ、問題解決に有効な数学的な考え方が身に付くよう配慮されており、思考力・判断力・表現力の育成を図ることができる。（3年下P14～P15、4年上P40～P41など）
	2 その他	○1年の巻末には、これから学習する数詞の一覧表の掲載、2年以上には「夏休みの算数の自由研究」の設定があり、発達段階に応じた学習に配慮されている。 ○問題解決学習の流れの中に、話し合い活動を取り入れることで、様々な解決方法を学習でき、楽しく学習できるよう工夫されている。（3年上P48など） ○単元の導入の際には、操作活動などを通して児童自らが単元の課題を設定しやすいように工夫されている。（2年上P19～P20など） ○巻末にてんびんや分度器などの切り取り教具が用意され、算数的活動を通して主体的に解決できるよう配慮されている。
	3 全国 調査	○テープ図、線分図、2本数直線の図などの書き方を詳しく示すなど、数量の関係を適切にとらえられる工夫がされており、場面と図を関連付けて数量の関係を理解できるように工夫がされている。（2年上P54～P55、3年上P51など） ○「単位量あたり」では、量の数と子どもの数を取り上げ、2つのわり算で表される式の意味が理解できるよう配慮されている。（5年P146～P149） ○立体の面を写しとったり立体を切り開いたりする様子を観察するなどの活動を通して立体と展開図の関係を理解できるよう工夫されており、問題解決に必要な情報を読み取る力を育成するように配慮されている。（5年P204～P206）
	4 外的 要素	○色づかいはカラーユニバーサルデザインの観点から配慮されている。 ○長期間の使用に耐えられるように極めて丈夫に製本されている。ページも左右にしっかり開くことができる製本の仕方が採用されている。
	5 構成 配列	○小中連携の学習内容の関連を「数学へのとびら」で示したり、6年巻末に「算数卒業研究」を設けている。 ○「よみとる算数」や「学びをいかそう」「もっと学びをいかそう」など、学んだことを活用する力が育成できるように配慮されている。（2年～6年） ○1年から3年は、「買えますか、買えませんか」とし、品物がある金額で買えるかどうかを判断させる内容を扱い、4年から6年は「見積りをつかって」で見積り、概数を活用し総合的な判断力が養えるよう配慮されている。
	6 資料	○取り上げられる統計資料については、児童になじみやすく算数科の指導に合った正確で新しいものが使用され、出典も明記されている。 ○2年以上の巻末には、ノート書き方、説明のしかた、算数でよく使う考え方などを取り上げた「算数資料集」があり、児童が必要に応じて活用できるよう工夫されている。 ○5年・6年の巻頭では、算数で学んだことが仕事に生かされていることを実感できるような資料が用意されている。
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市 施策	○【基礎】全体的に発展的な問題が多く、基礎的・基本的な内容を習熟させるというよりは応用力を付ける方に重点を置いている。 ○【言語・思考】考え方を子どもの吹き出しなどで書きすぎている部分も多く、思考の妨げになる。
	2 その他	○1年「いくつといくつ」では、他社は5から扱っているが、6からしか扱いがない。 ○4年「がい数とその計算」では、最初の段階から㎤の単位がつくような大きい数を扱っており、初めてがい数を学習する児童にとっては理解しづらい。
	3 全国 調査	○「よみとる算数」の文章が長く、子どもにとっては理解しづらい。（6年P188～P189など） ○単位量あたりの大きさを使って比べる学習では、人口密度の問題のみで、違うパターンで図を使って考えるなどの問題が用意されていないため、数量の関係をおさえるには問題の分量が少ない。（5年P150）
	4 外的 要素	○1ページの情報量が多く、見にくい箇所がある。（2年上P38など） ○低学年のフォントがやや小さく感じる。 ○イラストや写真の統一感がない。
	5 構成 配列	○0のたし算が独立しているので、加法の意味指導の理解が困難な児童にとっては形式的な理解になる恐れがある。 ○十進位取り記数法の習熟の観点から、小数より分数が先に配列されていることで、児童の理解に困難さを感じる。（3年）
	6 資料	○さし絵が漫画のようで、数字のかき方や、現実にはありえないようなさし絵が使われている。（5年P182～P183など） ○写真が算数と結びつかず、興味がそがれる。（6年P111） ○時計の長針と短針がありえないような形になっている。（2年上P10、P11など）

算数 6		日本文教出版株式会社（116日文）	
特に優れている点	1 大阪市 施策	○【言語・思考】「学び方ガイド」「さあ算数の学習をはじめよう」に学習過程が示されていたり、「さんすうノートをつくろう」「算数で使いたいことば・考え方」では、考えた過程を言葉、数、式、図等を使って説明できる指導に配慮されており、言語力や論理的思考力の育成を図ることができる。 ○【習熟】各学年に「たしかめポイント」「じっくりチェック」「ぐっとチャレンジ」が設けられていて、既習事項をふりかえったり、発展的な問題に挑戦したりするように工夫されており、学習状況に応じたきめ細かな指導や学習内容の充実が図られている。 ○【基礎】巻末の「ステップアップ練習」では、参照ページも示されているので、児童の理解の程度に応じた取り扱いができるよう工夫されており、基礎的・基本的な事項の定着を図ることができる。	
	2 その他	○適所に「いち・に・算活」があり、児童が学習したことを身の回りや生活に活かすことがしやすい。（4年上P58, 4年下P66～P67など） ○重要な内容について、マークをつけて色を変え、本文と書体を変えて表記するなど配慮されている。（3年上P70など） ○1年「たしざん」では、加数分解、被加数分解、五二進法と子どもたちが色々な解決法を見いだせる8＋7の問題場面を、9＋4の問題場面の隣ページに並ぶように工夫して配置し、児童の実態に応じた導入を選べるよう工夫されている。（1年P90～P93）	
	3 全国 調査	○3年以上の「活用」のページでは、場合の状況に基づいて数を整理したり、式に表したり、式を読み取ったりする等、全国学力・学習状況調査の問題を意識した問題を取り上げ、知識や技能を活用する力などの学力を向上させるように配慮されている。（4年下P122, P123） ○小数のかけ算やわり算の導入では、数直線図を用いて、1より小さい数をかけたり、1より小さい数でわったりする意味について、図への表し方を段階的に丁寧 に扱っており、場面と図を関連付けて数量の関係を理解できるような工夫がされている。（5年上P57～P58, P73～P74） ○図、式、ことばをもとに、面積の求め方を考えるようになっている。（4年生下P43～P45）また、「よみとろう あらわそう」では、図、式、ことばを関連付けて面積を求める方法を整理するなど配慮されており、場面の状況や問題の条件に基づいて、必要な事柄を過不足なく記述する力を育成するように配慮されている。（4年下P54）	
	4 外的 要素	○A B判の紙面を活かして、紙面両端に設けた側注に支援やヒントが示されている。図やグラフなども大きく見やすい。（4年上P64） ○色使いが落ち着いていて見やすく、ユニバーサルデザインが配慮されている。 ○改行（1年P17, P22, P25「やりかた」など）や、問題文の囲みなど工夫されている。（5年上P17の1, P19の2など）	
	5 構成 配列	○単元が分散的に配列され、同じ内容が続かないようになっている。数と計算領域の単元の後に、他の領域が配列されていて、4つの領域をバランス良く配置してある構成になっている。（2年上単元配列参照） ○3年下で「小数」→「分数」→「重さ」の順で配列されていて、小数で表しきれない場合の表現方法として分数について学習している。 ○2年「たし算の筆算」「ひき算の筆算」、3年「わり算」のように、習熟に時間がかかる内容は、早期に学習する配列になっている。	
	6 資料	○他の教科書に比べ、全体的に拡大されて見やすく、ページも開きやすい。 ○単元のはじめに「次の学習のために」として必要な既習事項を振り返り確認する問題が取り入れられている。 ○「算数ノートをつくろう」が見開き1ページで実際のノートと同じ構成になっていて見やすく、また内容も分かりやすく整理されていてノート指導に役立つ。（2年上P4～5）	
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市 施策	○【言語・思考】「学び方ガイド」や側注のヒントが児童の思考を制限する可能性がある。（6年上P13など） ○【習熟】より理解の進んでいる児童に応じた発展的な内容が少ない。	
	2 その他	○反比例のグラフ導入に、12cm²の長方形の縦と横を取り上げ、視覚的に分かりやすく反比例のグラフを導入しようという意図は理解できるが、xとyの値をプロットすることとの関係性が分かりづらく、児童にとって理解しにくい。（6年下P29） ○「長さの単位」の導入では、「線の長さを比べましょう」という導入で、間接比較をねらっていると思われるが、1年生で任意単位まで学習しているので、前教科書のように、任意単位からのスタートで良い。また、この提示では、いきなり普遍単位に考えが及ぶ可能性もある。（2年下P48～P49）	
	3 全国 調査	○「単位量あたりの大きさ」の導入のひよこの絵が不自然である。（5年下P36） ○見取り図の方眼と実線の見分けがつきにくく、児童にとっては理解が難しくなる。（4年上P112）	
	4 外的 要素	○A B判で重たく、大きいので、特に低学年の児童には取り扱いにくい。 ○50m走のタイムの絵が同じレーンを走っているように見える。（4年上P52）	
	5 構成 配列	○4年生の設定時数161時間に対して、5年生が151時間と10時間少なく、学習内容の多い5年生にとって適切ではない。（他5社は4年生と5年生がほぼ同時間。最も開いている社でも5時間差である。）	
	6 資料	○「で」「ず」などの「」が小さいので、見づらくて読みづらい。（1年P126など） ○身の回りにある色々な数探しで、52号線という道を示したかったのだと思うが、標識の行き先「平城宮跡」という漢字が難しく、もう少し読みやすい地名にするかルビを打つ工夫がいる。（1年P132）	